

上条 報告

第39号
平成24年8月

甲州市教育委員会
☎32 - 5097

お伊勢参りと 伊勢市内の町並み

伊勢神宮は、三重県伊勢市に所在します。神社本庁の本宗で、単に「神宮」というときは伊勢神宮のことを指します。外宮（げくう）と内宮（ないくう）に別れ、外宮は「豊受大神宮（とうようけだいじんぐう）」、内宮は「皇大神宮（こうたいじんぐう）」と称します。歴史は大変古く、内宮は垂仁天皇の二十六年（紀元前四年）に、外宮はその五〇〇年後に鎮座されたとい

い、「日本人の総氏神」といわれる所以です。

江戸時代に入ると、庶民の間でお伊勢参り（お陰参り）が大流行し、当時の人口の二〇パーセントにあたる人々が押し寄せたといえます。そうすると、神宮への参道に町並みが形成され、多くの参拝者に対応できるように、宿泊や土産、食事などの商売が盛んになってきました。神宮の近く

には、水運を利用した問屋街である河崎地区があり、大量の物資が参道の商店や参拝者に供給され、豊富な資金から優れた町並みを作り上げました。

いずれも伝建地区ではありませんが、伊勢市の三地区を紹介します。



内宮御正殿前の石段。ここから先は撮影禁止です。

外宮参道の町並み

外宮の参道は、近鉄線・JR線の伊勢市駅から直線で境内へ延びており、五〇〇メートルほどの長さがあります。参道は街路事業により幅も広く舗装もしつかりしており、駅から来る参拝者に対して参道らしい雰囲気を作っています。

参道に面する建物は新しいものが多く、昔ながらの建物は少ない感じがします。また、駅に近いほど空き地が目立ち、街路事業が継続されていることがわかります。外宮の参道という歴史的な背景よりも、駅前の一等地という立地を活かしての町並みづくりを行い、商業の活性化を図ろうとしているといった印象を持ちました。



数少ない古建築。下は大正創業の旅館。



伊勢市駅前。駅には近鉄とJRが乗り入れており、まさに外宮の玄関口です。

河崎の町並み

河崎は勢田川を利用した水運で栄えた問屋街です。船を川沿いの蔵に横付けして直接荷を運び込む形式で、米や酒、海産物などが運ばれてきました。

水運はやがて陸上輸送に代わり、そのため町並みは急速に廃れていきましたが、地元有志により昭和五十四年に「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」が結成され、河崎と勢田川を次代へ伝承するため、保存啓蒙活動や蔵を使ったショップの開設、イベントを行っています。平成十四年には活動の拠点となる「伊勢河崎商人館」を、翌十五年に「河崎・川の駅」を開館し、フォーラムやワークショップを多数開催しました。



伊勢河崎商人館。NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆が運営しています。



商人館の前にある土蔵群。複数の店が営業しています。



勢田川と川に沿って形成された町並み。



船から直接蔵へ物資を入れるため、船着場が附属した土蔵。

内宮参道の町並み

内宮の参道は、通称「おはらい町通り」といわれています。

全長八〇〇メートルほどの通りの両脇には、びっしりと商店が建ち並び、所どころに残された古建築に倣った、統一感のある町並みが形成されています。通りのほぼ中央の五十鈴川側に銘菓・赤福の本店があり、その向かいには「おかげ横丁」という新しい町並みが、平成五年に整備されました。

《おはらい町通り》

内宮から五十鈴川に沿って緩やかに弧を描くように整備された参道で、内宮前から五〇〇メートル位の間は、土産や食事などの商店が隙間なく並び、後の三〇〇メートルほどは町並みもまばらになってきます。



五十鈴川と参道の背後。静かなたたずまいです。



おはらい町通り。大変な賑わいでした。



五十鈴川にかかる宇治橋を渡って内宮に向かいます。

賑やかな参道はもうこれ以上建物の改造や建て増しができない状況ですが、内宮から離れた建物がまばらな参道では、既存の建物を使った新たな商店やレストランができつつあり、街を作る意気込みが感じられます。

《おかげ横丁》

おかげ横丁は参道のほぼ中央から西へ張り出すように整備された新しい町並みで、平成五年の神宮式年遷宮を記念して作られました。建物は移築されたものも多く、土産屋や食堂として利用されています。多くの参拝客が立ち寄る、一大観光地となりました。

伊勢神宮は、平成二十五年に二〇年に一度の遷宮が行われます。参拝の機会がありましたら、その近くにある町並みも一緒に楽しみください。



中央の建物が赤福本店で、その前の通りがおはらい町通り(参道)です。



おはらい町通りからおかげ横丁を見たところ。おはらい町通りと違和感なく一体化しています。



賑わいはありませんが、残されている古建築は大きな可能性を持っています。

